

2025/09/14

説教題:「裁きと傲慢」

聖書朗読: ヤコブの手紙 4:10-17

¹⁰ 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。

¹¹ 兄弟たち。互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟の悪口を言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているのです。あなたが、もし律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です。¹² 律法を定め、さばきを行なう方は、ただひとりであり、その方は救うことも滅ぼすこともできます。隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか。

¹³ 聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう。」と言う人たち。¹⁴ あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現われて、それから消えてしまう霧にすぎません。¹⁵ むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」¹⁶ ところがこのとおり、あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです。

¹⁷ こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行なわないなら、それはその人の罪です。

おはようございます、皆さん。またお会いできて嬉しいです。私は新約聖書の中で最も好きな書であるヤコブの手紙を通して、一連のメッセージを続けています。この書が好きなのは、クリスチャンとしての生き方について多くの実践的な教えを語っているからです。ヤコブの手紙 1 章では、私たちに降りかかる試練や誘惑にもかかわらず信仰によって生きる重要性、そして神の御言葉を聞くだけでなく読むこと、さらにその教えを実行することの重要性を学びました。ヤコブの手紙 2 章、3 章、4 章では、これらの原則が私たちの生活状況、特にクリスチャンの兄弟姉妹との関係においてどのように現れるかを学びました。3 章では、私たちが舌を誤用する多くの方法について学び、4 章では教会で頻繁に見られる争いや対立について考察しました。

ヤコブは繰り返し、私たちの根本的な問題は心の内にあると教えています。教会生活や個人生活におけるこれらの問題は、本質的に心の問題なのです。もし私たちが心に良いものを満たすなら、口から良い言葉が生まれ、行動に現れるでしょう。しかしヤコブは 3 章 16 節で、心に宿る妬みや利己的な野心が人間関係を本当に台無しにすると告げています。また 4 章 3 節では、誤った動機と利己的な快楽が教会内の争いや対立の根本原因であると記されています。4 章 5 節でヤコブは、私たちが誤った動機や自己中心的な快楽に駆られることを許すとき、それはキリスト教の道ではなく世の道に従うことだと告げています...そして世の道に従うなら、私たちは自らを神の敵としているのです。キリスト者はイエス・キリストに従う者と決心した人々であることを自覚しなければなりません。それゆえ、キリスト者が世の道に従うことはふさわしくないのです。

キリスト教徒の生活における三つの主なる敵は「世、肉、悪魔」という古い格言を、私はあなたに話しました。世、肉、悪魔。この三つに警戒しなければなりません。世の邪悪な習慣や理屈に従ってはなりません...肉の様々な誘惑に抵抗しなければなりません...そ

して、アダムとエバを神への反逆へと誘い、今もなお人類を罪と反逆へと誘い続けるあの古の敵、悪魔に欺かれてはなりません。

前回のメッセージでは、ヤコブの手紙4章7節から9節にある勧告に焦点を当てました。そこではこう告げられています：神に従うこと……悪魔に抵抗すること……神に近づくこと……罪から身を清めること……そして心を清くすること。

[説教内では読みません ヤコブ 4:7-9 – 「7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。9 あなたがたは、苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。」]

その段落の前後で、ヤコブはさらに別の勧告を私たちに与えていますが、ここで特に強調したいと思います。6節にはこうあります。「しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、（旧約聖書で）こう言われています。『神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。』」10節にはこうあります。「主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。」

勧告は、私たちが謙遜でなければならないということです。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」恵み。私たちがこのように生きることを可能にするのは、神の力、神の恵みを通してです。神の前での謙遜な人生です。私たちが謙遜であるためのこの恵みの賜物を持っているだけでなく、しかし、私たちは10節にあるように約束が与えられています。10節：「の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。」今日の聖書朗読は、この重要な聖句から始まります。神はご自身の従う者たちに自らを低くするよう求め…そしてそうする者を高く上げると約束されます。これは聖書全体を通した重要なテーマです：私たちは神によって創造され、謙遜に神に従うべき存在なのです。しかし人間は度々この務めに失敗し、神との関係を損なってきました。それゆえ神は御子イエス・キリストをこの地上に遣わし、十字架上の犠牲によって創造主との関係を回復させてくださったのです。イエスを信じる者は赦され、今や主であり救い主であるイエス・キリストに従う者となりました。

新約聖書の書簡には、キリストの弟子としてどう生きるべきかについての多くの教えが記されており、古い罪深い生き方を捨て、父なる神と主イエス・キリストを敬う清く正しい生活を送るよう繰り返し勧められています。そして神の前で私たちが持つべき最も重要な姿勢は謙遜です。謙遜になりなさい。主の御前で自らを低くしなさい。謙遜であり、主に従いなさい。反抗して自分のやり方で物事を進めようとしてはならない——それがエデンの園でアダムとエバを破滅に導いたのです。また、他の人間やクリスチャンの兄弟姉妹より自分を優位に置こうと試みてはなりません。主の御前で自らを低くし、主が選ばれる時と方法で主があなたを高めてくださるよう待ちなさい。

イエス・キリストがこの世にいた頃、聴衆に向けて語られたいくつかの勧告を思い起こします。当時の宗教指導者の中には、高い地位を享受しながらも、あまりに自惚れ、自己中心的で、社会における自らの身分に溺れている者もいました。

ルカ 14:1 を、そして 7-11 節を続けて読みましょう – 「1 ある安息日に、食事をしようとして、パリサイ派のある指導者の家にはいられたとき、みんながじっとイエスを見つめていた。… 7 招かれた人々が上座を選んでいる様子に気づいておられたイエスは、彼らにたとえを話された。8 「婚礼の披露宴に招かれたときには、上座にすわってはいけません。あなたより身分の高い人が、招かれているかもしれないし、9 あなたやその人を招いた人が来て、『この人に席を譲ってください。』とあなたに言うなら、そのときあなたは恥をかい、末席に着かなければならないでしょう。10 招かれるようなことがあって、行ったら、末席に着きなさい。そうしたら、あなたを招いた人が来て、『どうぞもっと上席にお進みください。』と言うでしょう。そのときは、満座の中で面目を施すことになりません。11 なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

イエスの時代の宗教指導者たちの多くは、重要な席では栄誉ある席に座ることを好み、時には全ての客が着席する前に自らその席に着くこともありました。イエスは彼らに、栄誉の座を求めるのではなく、初めはより低い座に着くよう勧められました。主人がより高い座に案内するかどうかは主人の判断に委ねなさい。もしあなたが、初めから自らを高く掲げれば、恥をかくことになるかもしれない、初めから自らを低く保つ方が良いのです。

関連聖句で、イエスはこのことをマタイの福音書の中で言われました。マタイ 23 章 1-2 節から始まり – 「1 そのとき、イエスは群衆と弟子たちに話をして、2 こう言われた。
「律法学者、パリサイ人たちは、モーセの座を占めています。」

6-7 節 – 「6 また、宴会の上座や会堂の上席が大好きで、7 広場であいさつされたり、人から先生と呼ばれたりすることが好きです。」

10-12 節 – 「10 また、師と呼ばれてはいけません。あなたがたの師はただひとり、キリストだからです。11 あなたがたのうちの一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません。12 だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。」

11 節で再び – あなたがたのうちの一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません。神の民の中で高い地位を得る道は、しもべとなることにあります。現代のキリスト教会において、いわゆる「しもべのリーダーシップ」について多くの議論を耳にします。教会の指導者は何よりもまず、会衆のしもべであり、私たちに神への道を示す者である。指導者は教えと、キリスト教の基準に従って生きる自らの模範によってこれを成し遂げます。

1 ペテロ 5:5-6 を読みましょう – 「5 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。6 ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。」

謙遜の道。これが今日のメッセージで最初に強調したい点です。なぜなら、ヤコブの手紙で語られていることの多くは、キリスト教指導者だけでなく私たちすべてにとって、クリスチャンの生活に必要な基礎的な姿勢として謙遜を掲げているからです。今日のヤコブの手紙4章の残りを見ていくにあたり、このことを心に留めておいてください。

本日の説教題は「裁きと傲慢」です。ヤコブの手紙4章11-12節は、兄弟姉妹に対する不適切な批判的態度について述べ、13-16節は神を無視する傲慢な生き方について語っています。

ヤコブ4:11-12を読みましょう－「11 兄弟たち。互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟の悪口を言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているのです。あなたが、もし律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です。12 律法を定め、さばきを行なう方は、ただひとりであり、その方は救うことも滅ぼすこともできます。隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか。」

隣人を裁くとは、いったい何者でしょうか。この問題、すなわち同胞やクリスチャンの仲間を裁くことは、大きな問題となり得ます。あなた自身も不完全な人間であり、他人を批判する際、特にクリスチャンの兄弟姉妹を批判する際には、細心の注意を払わねばなりません。

実際、誤りを犯しているクリスチャンを戒める必要がある状況も一部存在しますが、ヤコブが言及しているのはそうしたケースではありません。彼の勧告は、裁きそのものに対する完全な、100%の反論ではありません。それは、他人を軽率に裁き、時に神の律法を超えるほどに、自己義認の基準で他人を裁くような態度に対する反論なのです。

ヤコブ4:11-12の関連聖句は、山上の垂訓の中でイエスが言われました。マタイ7:1-2－「1 さばいてはいけません。さばかれないためです。2 あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。」多くのクリスチャンは、ヤコブの手紙4章とマタイによる福音書7章のこれらの聖句を誤用し、「決して他人を裁いてはならない」と主張します。彼らは「私を裁かないで！イエスは『裁くな』と言っている！」などと主張するでしょう。しかし実際には、クリスチャンの兄弟姉妹に対して、その人生において正しくないことを伝える必要がある時があるのです。

例えば、ヤコブの手紙の最後の二節を見てみましょう。ヤコブ5:19-20－「19 兄弟たちよ、あなたがたのうちでだれでも真理から迷い出た者があれば、それを立ち返らせなさい。20 罪人をその道から迷い出させた者を立ち返らせた者は、その人の魂を死から救い出し、多くの罪を覆うことになるのです。」もしあなたのクリスチャンの兄弟姉妹が重大な誤りを犯しているなら、その誤りを指摘し、彼らが誤った道を正し、罪を悔い改めることができるようにすべきです。

コロサイ人への手紙 3:16 を思い起こさせます—「**16** キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」互いに教え、戒め合いなさい。キリストの御言葉を用いて、ここに聖書に記され、しばしば私たちの詩篇や賛美歌に含まれている御言葉を用いて。兄弟姉妹を教え戒めるには適切な時があります。しかし残念ながら、ある人々は裁きにおいて行き過ぎることがあります。

マタイによる福音書 7 章に戻り、イエスが裁きについて語っている箇所段落全体を読みましょう。マタイ 7:1-5—「**1** さばいてはいけません。さばかれたいからです。**2** あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。**3** また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。**4** 兄弟に向かって、『あなたの目のちりを取らせてください。』などとどうして言うのですか。見なさい、自分の目には梁があるではありませんか。**5** 偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。」

この箇所は、クリスチャンの兄弟姉妹や未信者の友人を決して裁いてはいけないと言っているわけではありません。まず第一に、裁くなら注意した方がいいと言っています。なぜなら、あなたが他人を裁くために用いているのと同じ物差しで、自分自身も裁かれることになるかもしれないからです。次に、自分自身をよく見つめるべきです。なぜなら、気づいていない重大な欠点が自分の中にあるかもしれないからです。まず、その欠点を自ら解決してから、他人の人生に修正すべき問題があるとして指摘しようとするべきです。これがこの箇所の核心です。決して人を裁いてはいけないという意味ではありません。自分の基準で人を裁くべきではない、そしてまず自分自身を真剣に見つめるべきだという意味です。先ほど謙遜について話したことを覚えていますか？人間関係において謙遜な姿勢を持つ必要があります、それは修正が必要だと思うクリスチャン仲間と向き合う際に役立つでしょう。

マタイ 18:15-17 を見ましょう。ここで、イエスは言われます、「**15** また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。**16** もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。**17** それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人か取税人のように扱いなさい。」罪を犯している兄弟に対して、その人生で正すべき点を話し合うには適切な方法があります。時には裁きを下す必要もありますが、その場合の目的は罪を犯している兄弟を正すことにあることに留意しなさい——避けるべきは、神ご自身の命令を超える厳しい批判をすることです。

ヤコブ 4:11-12に戻りましょう – 「**11** 兄弟たち。互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟の悪口を言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているのです。あなたが、もし律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です。**12** 律法を定め、さばきを行なう方は、ただひとりであり、その方は救うことも滅ぼすこともできます。隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか。」

ここでヤコブが、兄弟を非難する者は律法に逆らうと言われ、律法そのものを裁くことになると述べている点が非常に印象的です。そのような者は神の命令の真意を超え、独自の基準を設け、裁きの役目を主張しているように思えます。これは実に傲慢です。神こそが唯一の律法者であり裁き主なのです。裁きは神に委ねましょう。先ほど引用した聖句にもある通り、戒めが必要な兄弟姉妹を見かけた時、私たちが用いるべきは神の実際の律法であって、自らの基準で人を裁いてはなりません。改めて、今日のメッセージ冒頭で述べた謙遜の原則を心に留めましょう。

それでは、ヤコブの手紙の手紙 4 章の残りの部分でヤコブが取り上げる話題に移りましょう。**13-14** 節 – 「**13** 造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。**14** さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。」

私はアメリカ人です。アメリカでは起業家精神を奨励し、利益を得るために事業において経済的リスクを取ることを推奨しています。時にはそのリスクが大きな利益をもたらし、時にはささやかな利益に終わり、時には失敗に終わることもあります。ヤコブの手紙のこの箇所は、こうした起業家精神を非難しているように見えますが、これらの節をそう解釈するのは正確ではありません。ヤコブがここで批判しているのは、事業を行う意欲そのものではなく、人生の計画が必ず成功に導かれるという態度です。それは、人生の脆さ...あるいは私たちの人生における神の絶対的な支配を無視したものです。将来の計画を立てることは結構ですが、人生は不確実であり、計画は様々な障害に直面する可能性があることを心に留めながら行うべきです。実際、病気や事故で人生は突然終わることもあります。新たな事業計画を立てる際には謙虚さが必要です。そして何よりも、私たちクリスチャンは、あらゆる努力において天の父と主イエス・キリストを喜ばせることを中心に生きるべきです。**13** 節で示されている態度は、意思決定において神を無視するものであり、まさに避けるべきものと教えられています。

以下の聖句において、ヤコブは読者に計画を立てる際に取りべき正しい姿勢を示しています。**15-16** 節 – 「**15** むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」**16** ところがこのとおり、あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです。」

ある都市に移住し、一年間の事業で利益を得ると断言するのは傲慢です。人生は短いだけでなく、キリスト教徒の生き方について言及する創造主がおられます。私たちが取るべき姿勢は、人生における神の主権を認めることです。「もし主のみこころなら、私たちは生き、またこれこれを行うでしょう」と言うべきです。

この姿勢は新約聖書全体に見られ、しばしばヤコブが 14 節と 15 節で使っているのと同じ、あるいは類似した言葉の表現で示されています。いくつか読んでみましょう：

箴言 27:1 – 「あすのことを誇るな。一日のうちに何が起こるか、あなたは知らないからだ。」

使徒 18:21 で使徒パウロは、このことについて言います – 「神のみこころなら、またあなたがたのところに帰って来ます。」と言って別れを告げ、エペソから船出した。」

ローマ 1:10 の中で、パウロは書いています：「いつも祈りのたびごとに、神のみこころによって、何とかして、今度はついに道が開かれて、あなたがたのところにへ行けるようにと願っています。」

1 コリント 16:7b – 「…主がお許しになるなら、あなたがたのところにしばらく滞在したいと願っています。」

ヘブル 6:3 – 「主がお許しになるなら、あなたがたのところにしばらく滞在したいと願っています。」

若い頃、私はキリスト教関連の本をあらゆる種類読んで楽しみました。キリスト教宣教師の伝記もその一つです。百年前や二百年前につくられた多くの本の中で、よくこんな記述に出くわしました：「神のご意思により、我々は某地域への伝道旅行を計画している」とか、「主の御心ならば、来月帰郷し宣教の報告をいたします」とか、「デオ・ヴォレンテ、近いうちにまたお伺いするつもりです」。このラテン語の「デオ・ヴォレンテ」は「神のご意思により」を意味し、私が読んだ書籍では頻繁に用いられ、時には略して「d.v.」と記されていました——「来週、d.v.でそこへ向かいます」今ではこうした表現を目にすることは稀ですが、たとえ口に出さなくとも、あらゆる決断の背景に常にこの姿勢を保つべきだと考えます。すなわち、万物を支配されるのは神であり、神ご自身の目的のために私たちの計画を変更されるかもしれないことを、常に認めるべきだということです。

今日の聖書句の最後の説に移りましょう。ヤコブ 4:17 – 「こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行なわないなら、それはその人の罪です。」これは、いわゆる「作為の罪」と「不作為の罪」の区別を想起させます。作為の罪とは、物を盗むことや誰かについて嘘をつくことなど、明白な罪を犯す場合を指します。私たちは罪を犯すので、「作為の罪」と呼ばれるのです。もう一つの罪は「不作為の罪」であり、すべきことを怠り、行うべきことを行わない場合に生じます。例えば、誰かに福音を伝える機会があるのにそれを怠ったり、困っているクリスチャンを見て助ける力があるのに手を差し伸べなかったりする場合です。これはヤコブの手紙 2 章前半で読まれたような「不作為の罪」であり、積極的な罪と同様に神の心を深く悲しませるのです。17 節 をもう一度 – 「“こういう

わけで、なすべき正しいことを知っていながら行なわないなら、それはその人の罪です。」

私たちはよくヤコブの手紙4章17節を、こうした一般的な適用で用います：正しいことをすべきだと知りながらそれを怠ってはならない、なぜなら正しいことをしないこともまた罪だからです。しかし、この聖句を文脈の中で見てみましょう：ヤコブは、他人を誤って裁くこと、そして神や人生の不確実性を顧みずに将来の計画を立てる傲慢な態度について論じたばかりでした。あなたは今、神の基準ではなく自分の基準で他人を裁くことが間違っていると学びました。ですから、自分の価値観で兄弟姉妹を非難しないよう注意する責任があなたにはあります。また、あらゆる決断において神を考慮に入れる必要があると学んだはずです。今日の教えや、私やブルース牧師、あるいはこの説教壇や聖書研究会で他の講師がこれまで語った教えにおいて、あなたが正しいと知っている、すべきことを怠らないように必ず心がけるべきです。

今日のメッセージは、私たちの行うすべてのことに謙遜な姿勢を持つことの重要性について議論することから始めました。創造主である神の前には謙遜でありなさい。そして、兄弟姉妹であるクリスチャンに対しても謙遜でありなさい。あなたもまた、兄弟姉妹と同じように不完全な存在であることを忘れないでください。この謙遜の姿勢を保つならば、ヤコブの手紙2章、3章、4章で論じられてきた罪——舌の誤った使い方、教会内での争いや口論、誤った判断、その他の悪行——が大幅に減るだろうと思います。神と兄弟姉妹に対してこの謙遜の精神を保つことを心に留め、イエス・キリストが万物の主であり、私たちが仕えるべき方、模範とすべき方であることを忘れないようにしましょう。マタイ23:11—「あなたがたのうちの一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません。」1ペテロ5:5—「... みな互いに謙遜を身に着けなさい。…」